

A) 八劔八幡神社の鳥居

- まっすぐ西に(海に)向かっている。
- 昔は 4 つあったと言われている。
- 文献からは 3 つしか確認できていない。

現在、鳥居は、八劔八幡神社と鳥居崎海浜公園脇の市道にある。



B) 明治初期～中期（1868 年から 1904 年）の木更津（出典：歴史的農業環境閲覧システムHP）
迅速測図（明治時代）の鳥居の位置を、国土地理院（現在）の地図と照らし合わせた。



迅速測図



国土地理院 現在の地図

約 711m
約 230m

- 迅速測図には、3 つの鳥居が記されている（海中に 1 つ 陸に 2 つ）
- 明治時代に、陸にあった鳥居の位置は、現在の地図で見ると、八劔八幡神社、税務署の少し先あたりということになる。

C) 松井天山鳥瞰図 昭和 4 年 1 月写生

(昭和 5 年 2178 世帯 10334 人 第 3 回国勢調査より)



抜粋



八劔八幡神社

八劔八幡神社の鳥居

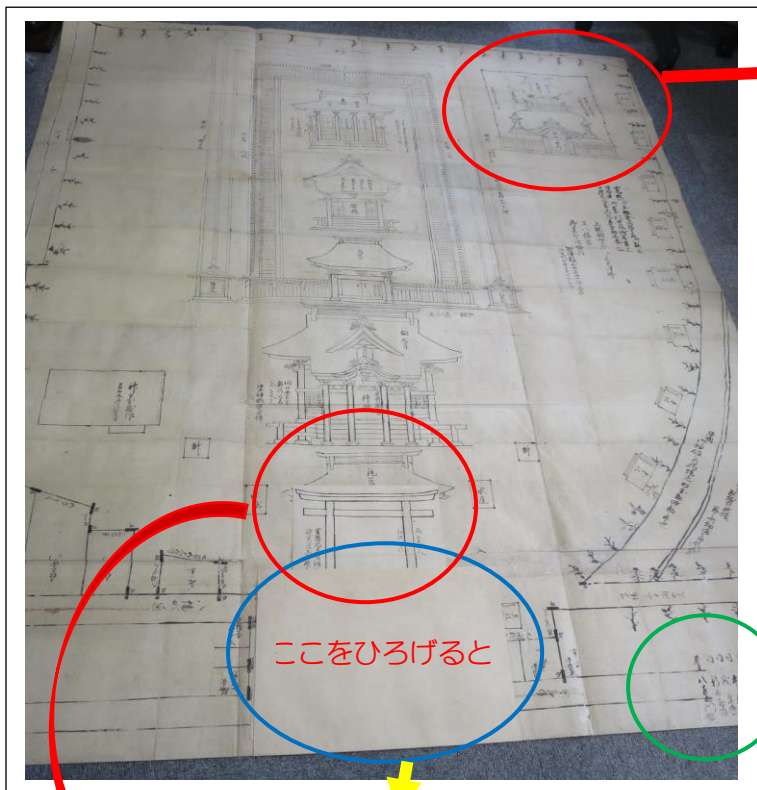
鳥居 地図に記載なし
昭和 4 年にはなかった

木更津税務署

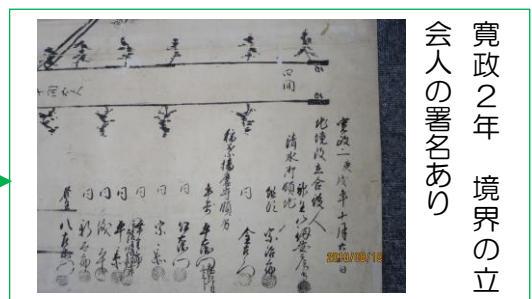
昭和 4 年当時
鳥居の先はすぐ海だった。
鳥居崎海浜公園の埋め立ては
まだ始まっていなかった。

海中鳥居
地図にあり

D) 寛政2年(1790年)当時の八剱八幡神社の検地絵図



東照宮 焼失



寛政2年 境界の立
会人の署名あり

ここをひろげると

八剱八幡神社の鳥居

高さ 1丈6尺(約5m弱)
木更津の大火で焼失

銅製からみかげ石に変更し建立

距離 72間 約200m
参道の幅 6間 約10m

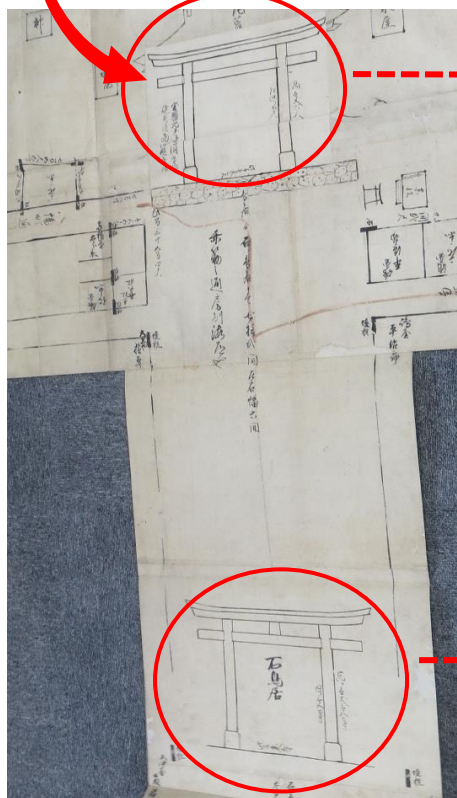
石鳥居

高さ 1丈三尺7寸(約4m超)

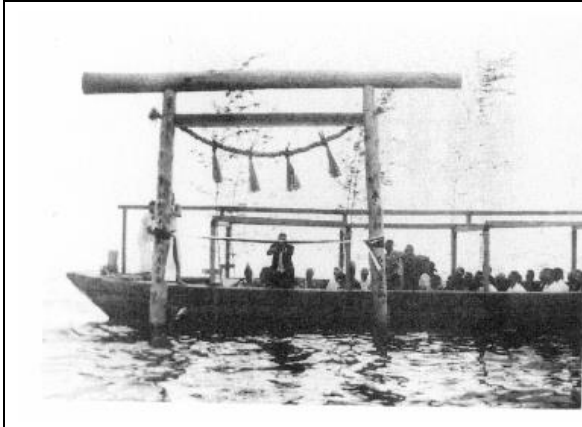
距離 160間 約288m
参道の幅 6間 約10m

海中鳥居

高さ 1丈三尺7寸(約4m超)
幹回り 3尺6寸(約1m)



E) 三の鳥居(海中鳥居)



- ▶昭和 32 年 8 月石川善之助氏により建設奉納された。
- ▶木更津市伊豆島上桑田谷の開墾地の近くの杉木四本を伐採して運搬・建設されたもの。
- ▶昭和 47 年「君津郡誌」に昔の言い伝えとして「本社を距る数町の海中に三の華表あり... (本社から数百 m離れた海中に三の鳥居があり...)
- ▶「三の鳥居遥かに海中にあり、道路の幅は 20 間あって全部社領に属していた」とある。

出典：八剣八幡神今昔の記 君津郡誌



- ▶大正時代
- ▶遠浅の鳥居崎海岸は、満潮時に水浴びや遊泳をすることができた。
- ▶後方にあるのは、納涼場。

出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津



- ▶大正時代中頃
- ▶鳥居の見えるあたりは、現在の木更津保健所から富士屋ホテルにかけての通り。引き潮になると沖合はるかまで運動場のような砂浜と化し、どこを掘ってもあさりやハマグリが面白いようにとれ、一部の養貝場を除いて、殆どの海面は自由に浜遊びができた。
- ▶松林は、貝渚海岸で、市民会館前の水路に沿って一部残っている。白く光るのは、新田川（矢那川）の水脈。

出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津



- ▶昭和 2 年頃
- ▶当時、木更津高女（現在の木更津東高）の水泳訓練しは、鳥居崎海岸の大蔵別荘館前に集合、この建物の生垣が女性との脱衣場には好都合の建造物だった。

出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津

F) 昭和初期のころの鳥居崎



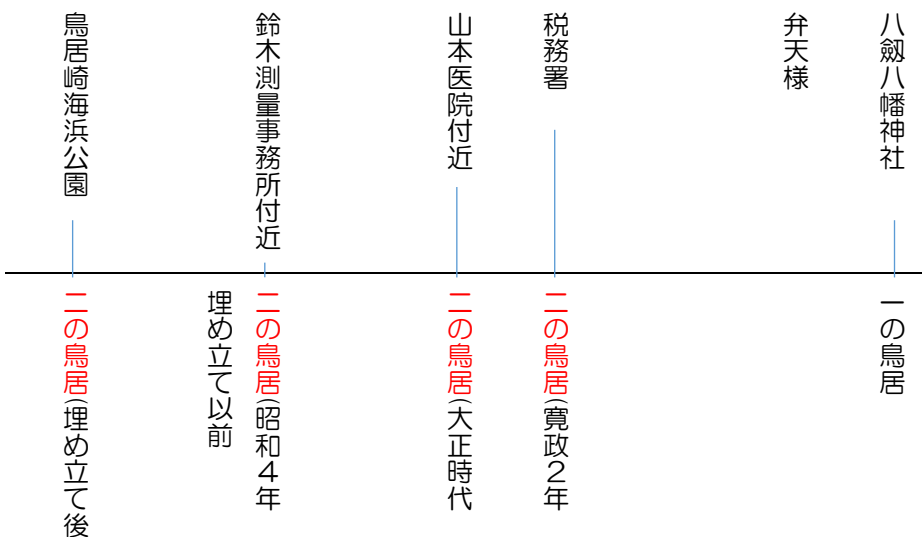
- ▶西に向かって屋並みの切れるところに、鳥居があり、そこからは遠浅の海となる。
- ▶右手前の角を入ると、弁天町の裏通りになる。
- ▶春音、桃の家、君の家、丁子屋、嬉楽などの置屋があり、中ほどに行くと見番があった。
- ▶前方の高楼は、高級旅館佐久間館。

出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津

G) 二の鳥居(石鳥居)

	<p>▶大正時代中頃</p> <p>▶この鳥居は、海岸の埋め立てに従って、何回か西へ移動し、現在は500m前方にある。</p> <p>▶8月15日には、年番の町内が、八幡様から大神輿を担いでこの鳥居をくぐり、海中の鳥居までお浜下りをする行事があった。</p> <p>右側 菜英の生垣 大倉の別荘</p> <p>左側 山本医院</p> <p>出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津</p>
	<p>▶S32年4月撮影。</p> <p>▶この鳥居は、海岸の埋め立て以前は、遙か後方の鈴木測量事務所付近に立っていた。</p> <p>▶鳥居の右に、与三郎お富見染めの松の案内板が立っているが、江戸時代の海岸線はさらに後方。</p> <p>出典：思い出の写真集 明治・大正・昭和の木更津</p>
	<p>▶コンクリート造りの灯台型は、昭和13年8月旧木更津中学卒業生の篤志家が建立した。</p> <p>▶二の鳥居の向こうは海岸。</p> <p>出典：おらが街</p>

H) S39年の木更津市動態図鑑を参考に、二の鳥居の位置をあてはめると



I) 木更津港開発功労者頌徳碑



▶市で、昭和 25 年 11 月 3 日鳥居崎海岸に建立した。

題目の文字 元県知事 川口爲之助氏が揮毫

碎文 八劔八幡神社の八劔功氏が起草

碎文の文字 千代倉胖氏（櫻舟）が揮毫

石刻 北片町 鳥飼伊三郎氏

頌徳碑の碑文は、香々見儀介、石川貞次郎、伊藤有吉、石川善之助の功績を後世に伝えている。

出典：図説 木更津のあゆみ

J) 木更津港の基礎石



木更津港の基礎石
昭和七年十月三十日当時の蒸気河岸、現在の中央三丁目で木更津地区港の起工式が行われた時、当時の千葉県知事岡田文秀氏の銀の小槌によって留め金が解かれ、水煙をあげて港へ沈めた基礎石で、木更津港の歴史を今に伝える貴重なものである。
木更津港も時代の返還とともに 50 有余年を経た今日、この基礎石を発見したのでも末永く保存するものである。
平成 2 年 10 月吉日

K) 鳥居崎海浜公園にあるそのほかの建造物



▶鳥居崎海浜公園プール

S39 年 8 月 10 日木更津市政の一面



▶木更津甚句記念碑

▶恋人の聖地 タヌキのカップル像

▶ロータリークラブの碑 (S47.4)

L) 吾妻公園にある弓道場



▶木更津弓道会のあゆみ 出典:木更津市体育協会50年史
S23年木更津市体育会結成 弓道同好会も歩み始めた。旧国鉄弓道場(J R 木更津駅敷地内)と翠光閣公園(証城寺付近)に仮設弓道場があった。

▶S24年から国体に出場。国体選手の合同練習は、千葉石炭会社の弓道場と市原町八幡宮境内仮設弓道場(現市原市)を転々とした。

▶S28年、県営弓道場(千葉寺)にできた。旧国鉄弓道場は数年後、木更津東校に移築したが、利用が少なく、使用できなくなった。翠光閣公園の弓道場も解体された。

▶S38年、木更津弓道の復興に着手したのが、市役所水道課勤務の職員だった。市浄水場(現図書館)資材置き場横にあづちを造り、野天の仮設弓道場をつくり、ポスターを掲示しよびかけ、弓道教室のさきがけとなった。県下で弓道の指導を広める会も発足し、指導者もふえていった。

▶S40年、会員もふえ、道場の必要性を痛感し、市教育委員会に道場建設の請願をした。鉄筋コンクリートに学校が建て替え過度期であり、解体された木材等を再利用し、3人だての弓道場が完成した。技量も上がり、段級審査を受ける会員もふえた。

▶道場の老朽化により、新道場建設の署名活動を行い、市長に嘆願した。S53年新道場が竣工した。県下一の本格的な道場だった。S55年には、遠的場が完成し、弓道教室を開き、受講者はふえていった。

▶木造の弓道場は曳家工法で移動(現訓練校)と、利用者は当時はふりかえる。

M) 吾妻公園にあるその他の建造物

▶千葉県吾妻配水機場



▶交通公園



▶老朽化した建造物



N) きさらづ未来活力創造プラン 第一次基本計画は、H27～30年度
現在、第二次基本計画策定中

＜新たな総合計画の構成と計画期間のイメージ＞

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44
基本 構想	目標年次：平成42年（西暦2030年）																		
基本 計画	第1次：4年				第2次：4年				第3次：4年				第4次：4年						
実施 計画		H27				H31				H35				H39					
			H28				H32				H36				H40				
				H29				H33				H37				H41			
					H30				H34				H38				H42		

*平成26年12月3日変更

O) パークバイプロジェクトのスケジュール（案）

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
鳥居崎海浜公園	■									
吾妻公園 中の島公園	■									
交流厚生用地	■									

※「富士見通りの再整備」のスケジュールについては、現在取り組みを進めている中心市街地活性化基本計画と整合性を図りながら検討していきます。